Education first !!



久留米大学医学部 医学教育研究センター

Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター ニュースレター 第六号

2015 年 11月号

IT本格化計画始動

医学部もついに本気を出します。これからITを本格化して行きます。現在まで、試験的(かつ研究目的)に医学教育センター独自に教育用サーバーを運用してきましたが、ここ数か月で急展開です。医学部の計らいで本格派(今までも本物ですが規模がより大きくなります)の教育用サーバー群(バーチャル構成)を導入していただけることになりました。現在稼働している問題プールシステムを始め、E-Learningシステム、シラバス、教務システムなどを、今後はこの新設サーバー群に徐々に移設予定です。すぐに、全ての事とはいきませんが、まずは優先順位を考えながら、できる事からコツコツと作業していきます。学生と教員双方に便利な環境を構築して行きたいと思います。ITに関わる事で、こんなことをしたい(教員)、してもらいたい(学生)などの要望がありましたら、医学教育研究センターまでご連絡ください。

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

まずは、医学教育研究センターについて知ろう! (その6)

Q: 医学教育研究センターの「正しい入り方」を教えてください?

A: 扉をノックして入室したら、丸テーブルに勝手に腰かけてコーヒー (デカフェ) が出てくるのを待ちます。

Q: 医学教育研究センターのひみつを教えてください(その2)?

A: 床を採掘するとあちこちからあやしい配線が多数見つかります。

医学教育研究センターは教育一号館の6階にあります(旧医学教育学)。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同



今号の特集

- IT本格始動
- 今月の学生の声
- 今月のスタッフの声
- 今月の医学時事

今月の学生の声

医学部医学科3年 亀山 稀

カンボジアでのボランティア活動

9月14日から9月20日までカンボジアボランティアツアーに参加してきました。出発前は旅行気分でツアーに参加しましたが1週間カンボジアで過ごしてみて考えさせられることがたくさんありました。



一つ目はカンボジアには若い人が多いなと思いました。これは

カンボジアでは1975年頃にポルポトという知識人が大量虐殺された悲しい歴史上の事実が関わっています。ホテルのフロントマンやドライバーさんも私たちと同世代なのにお金を稼いで家族のために働かなければならない事を知りました。自分は大学に行き、一人暮らしをしている事を当たり前のように考えていましたが、いかに恵まれているか感じました。

2つ目にカンボジアは医療の発展が必須な国だと感じました。アンコール小児院や孤児院を訪ね、医療の現状について学びました。日本では助かる病気がカンボジアでは死に至ってしまうことが多々あるのです。病院は裕福な人だけしか入院できず、病院の前に蚊帳を張って順番を待つ長蛇の列や、病院にたどり着くまでの費用のため家を売る人もいました。医師を目指す者として、救うことができる尊い命が毎日のように奪われてしまう事を知り、日本のように高度医療を発展させる事の前に発展途上国の医療基盤の確立が急務だと感じました。

最後にカンボジアの人々はたくましいと思いました。決して環境的にも経済的にも恵まれていないにも関わらず笑顔で明るい人々とたくさん出会いました。私たちは恵まれているが故に1日1日を時間に追われ些細な事への感謝の気持ちを忘れている気がします。カンボジアの人々は今日という1日を生きられることに感謝し、大人も子供も精一杯働き、勉強し、遊び、助け合って生きていました。裕福な国々の人が忘れかけている人と人との関わり合いをカンボジアで教えてもらえました。

これからは1日1日に感謝し、視野を広げ今自分にできる事を考えたいと思いました。帰国して自分にできる事を考えた結果、あのく祭でfair tradeという企画を主催することにしました。これは国は違えどインドの女性たちが作ったバックなどの日用品をあのく祭で販売し、その収益を還元する取り組みです。少しでも世界の人々の暮らしが良くなるような取り組みにこれからも参加していきたいと思います。

とても有意義な旅行でした。

※ 次号もカンボジアでの活動(戴佳恵さん)を紹介します。

今月の医学時事

2015年10月20日、東京電力福島 第一原発事故のあと急性骨髄性白血 病(AML)になった元作業員に対して労 災保険が認定された。福島第一原発 事故への対応に伴う被曝と作業員の疾 病が認定基準を満たして労災に認めら れるのは初めてである。

<詳しくは巻内記事にて>

朝日新聞

http://www.asahi.com/articles/ ASHBJ7DNSHBJULBJ014.html

毎日新聞

http://mainichi.jp/select/ news/20151021k0000m040081 000c.html

日本経済新聞

http://www.nikkei.com/article/ DGXLASDG20HBA_Q5A021C1CR 8000/ 医学教育研究センターのニュース レターに記事を投稿したいと言う方 は、是非ご連絡をください。教員、 学生問いません。教育に関する事、 学校生活に関すること、ボランティア 活動に関する事、大学に対する要 望など、受け付けております。

医学教育研究センター

今月のスタッフの声(不定期)

北川 周子

自治医科大学学園祭にてシミュレーター体験!

2015年10月10日 自治医科大学「薬師祭」に参加してきました。



主な目的は娘のモチベーションアップのためです。単科大学故に必ず医学系の何かがあるのではないかと思って行くと、学生のシミュレーションサークルが「きみもブラックジャックになろう2015」というシミュレーター体験会をしていました。腹腔鏡シミュレーター、縫合体験、採血体験、聴診体験、気管挿管が体験できるようです。早速中に入り空いているところから参加。まず

は採血。注射器の持ち方から針の取扱い、採血時の角度の説明があり、なぜこの角度なのか!ということもキチンと説明してくれました。血液の代わりに何か赤い液体を使用しており、本格的な採血シミュレーションがなされており、娘は割とスムーズに採血することができ、ご満悦です。次は縫合体験で、傷口を縫って糸を結ぶ体験です。病院ドラマが大好きな私はワクワクしながら縫合し、糸の結び方のレクチャーを受けましたが、難しいですね。ほどけないようにするのも手首返したりなど苦戦しました。

気管挿管のシミュレーションでは、親子対決としてどちらがうまく挿管できるか!病院ドラママニアの私は、もちろん挿管の場面はいくつも見てきています。調子に乗ってなりきっていると、「パキ」という音。アラ?と続けるとまた、「パキパキ」。「それは歯が折れる音ですね。こうすると歯が折れないようになりますよ」と教えて頂き首を持ちあげ四苦八苦しながら、おそらく気管だろうとビニール管を刺して空気を入れると見事に肺に空気がはいりました!かなりうれしかったです。「初めての人が1回で挿管できるのはめずらしいので、センスありますよ!」と褒めてもらえて一瞬今から医師を目指そうかなと思ってしまいました。娘は残念ながら食道に挿管してしまったので、私の勝ちで



す!次は腹腔鏡シミュレーター体験で、細かい部品など設置されており、画面を見ながら小さい球を拾ったり、突起のキャップを外したりかぶせたりするのですが、まあ、難しい。私は外すだけで精いっぱいでしたが、隣でうまく操作して外してかぶせてしている娘の姿が・・娘の圧勝でした。

あとは、聴診器で心音を聞いたり、自分の血圧を測るときの音を聞いたり、アルコールパッチテストをすることが出来ました。妊婦体験キットもあり、娘は重い・・よくこんなんで歩いてたな!と母を尊敬?する言葉も頂けました。

普段触ることがない医療機器に触れたことが純粋に楽しく、また、別の場所では救急車の中に入れてもらえたりと、医科大学ならではの催しがありとても楽しい時間を過ごせました。

次はどこの医科大学の文化祭に行こうか・・と考えています。

原発の作業員が白血病に

2015年10月20日、東京電力福島第一原発事故のあと急性骨髄性白 血病(AML)になった元作業員に対して労災保険が認定された。福島第一 原発事故への対応に伴う被曝と作業員の疾病が認定基準を満たして労災 に認められるのは初めてである。福島第一原発では今後も被曝を伴う作業 が続くため、労災申請が増えるかもしれない。

1976年に定められた放射線業務従事者の白血病の労災認定基準で は、年間5ミリシーベルト以上被曝し、被曝を伴う最初の作業から1年以上 経過して発症した人は、ほかの要因を除外できれば労災が認められる。今回 は41歳の男性であり、2012~2013年に3号・4号機周辺で構造物の建 設や溶接の作業に従事し、2014年1月に骨髄性白血病と診断された。

放射線障害の身体への影響は、被曝後数週間以内に生じる急性障害と 数か月以降に生じる晩発障害に分けられる。急性障害には白血球減少(と くにリンパ球減少)・紅斑・嘔吐・脱毛、晩発障害には白内障・白血病・固形 がんがあり、白内障は一定の線量を超えると高い頻度で起こり(確定的影 響)、白血病や固形がんは線量に応じて起こる頻度が高くなる(確率的影 響)。

安達 洋祐

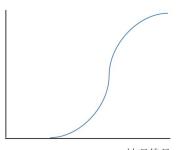
被曝線量

確定的影響 (脱毛や白内障)

確率的影響 (白血病や固形がん)

出現頻度

出現頻度



朝日新聞

http://www.asahi.com/ articles/ ASH-BJ7DNSHBJULBJ014.ht

毎日新聞

http://mainichi.jp/ select/ news/20151021k0000 m040081000c.html

日本経済新聞

http:// www.nikkei.com/ article/ DGXLASDG20HBA Q5A 021C1CR8000/

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。日本感染症学会(西日本地方会)より優秀 論文賞を頂きました。受賞者講演が奈良(奈良ホテル)で行われましたが、日程調 整がうまくできずに日帰りの強行スケジュールになってしまいました。天気も良く空も快 晴でしたが、せっかくの奈良公園もただ通り過ぎただけです。しかとシカのフンを踏みまし た。新幹線では爆睡で、移動中の景色も堪能せずです。



お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。 記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター 編集担当:柏木 孝仁

〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765

http://csme.asuscomm.com E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp